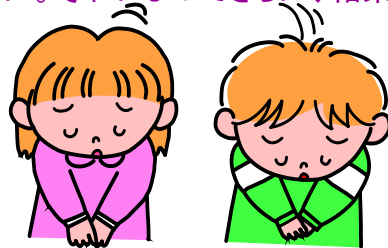


上手なほめ方



○結果だけでなくプロセスや努力をほめる

「子どもが100点を取った」→このとき、点数のことだけをほめるのは×そこに至るまでのプロセスをほめることが大切。「がんばったね。どうやって勉強したの？そう家で2時間も復習したんだ。えらいねー」といったように。それによってさらに、結果に向かって頑張ろうという意欲がわく。



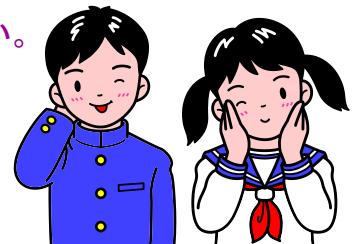
○失敗した時こそほめる

失敗した時に叱ってしまいたくなるが、(もちろん叱る必要がある場合もあるが)そればかりでは子どもも萎縮し、次に進めなくなってしまうこともある。失敗した時こそ、何かしら良いところを見つけてほめるといい。昨日やった問題をたとえ間違えても、「ダメじゃない」よりは、「昨日よりきれいな字で書けてるね。」とってあげられれば、もう一度頑張ろうとする子どもも多いに違いない。失敗したときこそ、何かしら良いところを見つけてほめてあげることが大切。忘れがちなことだが、これで自信がつき、失敗を恐れなくなる。



○二人がいれば二人とも一緒にほめる

一人だけほめると、ほめられていない子は孤立、孤独に陥ってしまう。ほめるときは、一緒にほめてあげよう。一人をほめるなら、他の子がいない時にすればいい。



○第三者を介してほめると効果的

直接ほめるのもいいが、ほめたい子に伝わるように、「～さんに頑張ってるって〇〇先生が言っていたよって伝えておいて」などとお願ひする。その人にさりげなく伝えてもらうと、ほめられた子は自分を評価されていることを知る。これは、ある意味直接言われるより効果的なこともあるようです。



○叱りも入れながら、タイミング良くほめる

全日本女子バレーボールチームの選手たちは、チームを率いる「叱りほめ」の達人、監督の指導で確実に力をつけてきた。叱ってほめることで、選手の能力を伸ばす練習方法とは、叱りながらもタイミング良くほめるという方法。叱ることがほめることをいかすことになるという。